

昨年10倍の量を収穫～奇跡の「安渡産復興米」
ひょうたん島日記 (2013. 10. 02)
<http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2013092600018/>

津波に耐え、「奇跡のコメ」と呼ばれる水稻があります。津波で大槌町安渡地区に流れ着いた種もみが、その年の秋に、がれきの中で、3束の稲を自生させました。昨年、5.5キロの種もみが収穫され、今年は、その10倍ものコメが実りました。関係者は、「安渡産大槌復興米」として、市場に出荷できる日を夢見ています。

震災が起きた2011年秋、安渡地区に住んでいた■■■さん(■)は津波で流された自宅玄関脇で、自生している稲を見つけました。安渡地区は漁師町。水田はほとんどありません。津波で、どこからか流れてきた種もみが実ったのでしょうか。刈り取って、「安渡産大槌復興米」と名付け、150株の苗を作ることに成功しました。昨年秋、この苗から5.5キロの種もみを収穫することができました。

今年は、この種もみから育てた苗を、約1000平方メートルの広い田んぼに移し、5月に田植えをしました。そして、秋の収穫期を迎えた9月24日、地元の人たちや、被災地を支援している岩手県遠野市の「遠野まごころネット」のボランティアの人たちが鎌で刈り取り、はさがけして天日干ししました。実ったコメは約500キロ。大半は、来年の作付用種もみとして残すことにしています。

地元の■■■さん(■)は「豊作でうれしい。稲の生命力には驚かされます。大きく羽ばたいてほしい」と話しています。

大槌町の仮設住宅に暮らす■■■さんは、津波に耐えて育った稲に感動して、こんな詩を作っています。

お米さん、初めまして。

貴方は何処から流れて来たのですか。

よく無事で、そして、塩害の中

我が家の玄関に生き延びてきましたね。

背は低くやせてこそおりましたが、

その姿は、がれきの中に一際、凜としていましたよ。

言葉にならない感動で、

涙がとめどもなく、こぼれ落ちました。

私は■■■と申します。

貴方には復興米と名付けましたよ。

お互いに助かった命を、大切に明るく、

ゆっくりゆっくりでいいのです。

転んでは起き、また、転んでは起き

生きて行きましょうね。

秋には貴方の子孫が黄金の実を付け

生まれます様に、
沢山の方々が努力をしてくださっています。
力強い希望の証を授けてくださって、
ありがとうございました。